

皆様おはようございます。梅雨も明け、いよいよ夏本番となりました。皆様お元気にお過ごしでしたか。コロナウイルス感染症もひたひたと広がっているようです。どうぞ熱中症と合わせてお気を付け頂きたいと願います。

さてヘブル書も8章に入りました。

ここでは文頭から「以上述べたことの要点は」と切り出します。

今までにこのヘブル書では、多くの語り掛けを通して、イエス様を信じることの大切さが伝えられました。

御使いに勝るイエス様、モーセに勝り、アブラハムに勝り、メルキゼデクに勝るイエス様が語られました。そして今日の箇所では「以上述べたことの要点は」と語られます。大変に興味深いです。

8:1 以上述べたことの要点は、このような大祭司がわたしたちのためにおられ、天にあって大能者の御座の右に座し、

2 人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる、ということである。

さてこのお話のメインポイントはこれです。まとめて要約すればこういう事です。このことは死かと心に留めて頂きたいという、問題の核心に触れることがここから語られるということです。

このメルキゼデクのような大祭司という方は、天の大能者、王である方の右に座っておられる方、このお話の要点というのは、そういうお方についてのお話なのですと語り始められます。

2節ではさらに、この方は仕える方、聖なる幕屋、真実なる、本当の、真正な、頼ることの出来る幕屋であり、それは主が建てたものであり、人によってではない、主が建てたその幕屋にこの方(イエスキリスト)は仕える者なのだと言います。

真実なる、本当の、真正の、頼ることが出来るとはどういう意味でしょうか。

3 おおよそ、大祭司が立てられるのは、供え物やいけにえをささげるためにほかならない。したがって、この大祭司もまた、何かささぐべき物を持っておられねばならない。

4 そこで、もし彼が地上におられたなら、律法にしたがって供え物をささげる祭司たちが、現にいるのだから、彼は祭司ではあり得なかったであろう。

ここでは天の聖所、天の幕屋の事が描かれています。そこに仕える大祭司イエス様は、地上の大祭司たちのように、自分たち自身の汚れのための供え物やいけにえを必要としません。しかし地上では不完全ながらも祭司たちはその聖なる務めを行っています。地上ではそれで十分なのです。しかし、天上ではそれにはるかに勝る、聖なる幕屋、真実なる、本当の、真正な、頼ることの出来る幕屋があるのです。そしてそこに大祭司としておられるのがイエス様です。

5 彼らは、天にある聖所のひな型と影とに仕えている者にすぎない。それについては、モーセが幕屋を建てようとしたとき、御告げを受け、「山で示された型どおりに、注意してそのいっさいを作りなさい」と言われたのである。

地上の祭司たちが神様の威光を仰ぐその壮麗な神殿は、聖所は、実は「天にある聖所のひな型と影」に過ぎません。それはイミテーションであり、コピーなのです。実態の影なのです。テレビのクイズショーで、このゲストは誰でしょうと、ロールスクリーンの向こう側に照らされたシルエットだけが写されることがありますが、私たちどんなに影に目を凝らしても、そこには暗い平面の影があるだけで、その詳細の形も、奥行きも、色も、表情も、全く分かりません。

地上の神殿というものは、いくら壮麗なものであろうとも、そのようにひな形と影に過ぎないと聖書は語ります。

「それについては、モーセが幕屋を建てようとしたとき、御告げを受け、『山で示された型どおりに、注意してそのいっさいを作りなさい』と言われたのである。」とある通りです。モーセは実物を見たのではなくて、型を見て注意深く幕屋を作りました。しかし、天上ではそれにはるかに勝る、聖なる幕屋、真実なる、本当の、真正な、頼ることの出来る幕屋があるのです。そしてそこに大祭司としておられるのがイエス様です。

6 ところがキリストは、はるかにすぐれた務を得られたのである。それは、さらにまさった約束に基いて立てられた、さらにまさった契約の仲保者となられたことによる。

7 もし初めの契約に欠けたところがなかったなら、あとのものが立てられる余地はなかったであろう。

8 ところが、神は彼らを責めて言われた、／「主は言われる、見よ、／わたしがイスラエルの家およびユダの家と、／新しい契約を結ぶ日が来る。

9 それは、わたしが彼らの先祖たちの手をとって、／エジプトの地から導き出した日に、／

彼らと結んだ契約のようなものではない。彼らがわたしの契約にとどまることをしないので、／わたしも彼らをかえりみななかったからであると、／主が言われる。

7節には「初めの契約に欠けたところが」あったと、大胆な宣言が記されています。主が民に与えた律法は、欠けたものではなかったはずです。どうして神様はご自分の正しい完全なおきてをかけたものだなどと言われるのでしょうか。

神様は「わたしが彼らの先祖たちの手をとって、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約」を、「彼らがわたしの契約にとどまることをしないので」役に立たない、実を結ばせない、欠けた契約だと言われるのです。

神様はあの奴隷状態のエジプトのただ中で、極度の労苦の中、民が挙げた叫びの声を聞き給いて、「わたしが彼らの先祖たちの手をとって、エジプトの地から導き出した」と語られます。その弱り切った、弱々しい幼子の手を取って危険なところから脱出させて進む父親のように、主は力強く民をエジプトから手を引いて導き出してくださいました。それなのに、その「導き出した日に、彼らと結んだ契約」を、「彼らがわたしの契約にとどまることをしない」というのは、どうしたことでしょうか。

あの頑ななエジプトの王を10の奇跡をもって屈服させ、火の柱、雲の柱で導き、紅海を二つに分け、エジプトの騎馬隊を撃破し、荒れ野の民に食べ物と飲み物を与え、実に40年に渡り、着物も擦り切れず、足も晴れず、飢えることもなく、主は頑なな民を忍耐を持って導き、約束の地に入れて下さいました。

申命記 8:2 あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。

8:3 それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに知らせるためであった。

8:4 この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。

8:5 あなたはまた人がその子を訓練するように、あなたの神、主もあなたを訓練されることを心にとめなければならない。

8:6 あなたの神、主の命令を守り、その道に歩いて、彼を恐れなければならない。

8:7 それはあなたの神、主があなたを良い地に導き入れられるからである。そこは谷にも山にもわき出る水の流れ、泉、および淵のある地、

8:8 小麦、大麦、ぶどう、いちじく及びぎくろのある地、油のオリーブの木、および蜜のある地、

8:9 あなたが食べる食物に欠けることなく、なんの乏しいこともない地である。その地の石は鉄であって、その山からは銅を掘り取ることができる。

8:10 あなたは食べて飽き、あなたの神、主がその良い地を賜ったことを感謝するであろう。

8:11 あなたは、きょう、わたしが命じる主の命令と、おきてと、定めとを守らず、あなたの神、主を忘れることのないように慎まなければならない。

9節に、「彼らがわたしの契約にとどまることをしないので、わたしも彼らをかえりみなかった」と神様はおっしゃりながらも、不信の民のかたくなさを責めながらも、8節で、「見よ、わたしがイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ日が来る。」と語られたのです。

9 それは、わたしが彼らの先祖たちの手をとって、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようなものではない。彼らがわたしの契約にとどまることをしないので、わたしも彼らをかえりみななかったからであると、主が言われる。

10 わたしが、それらの日の後、イスラエルの家と立てようとする契約はこれである、と主が言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。

頑なさ極まれる民のために、石の板にではなく、心の板に例によって書き記される、主の贖いによる新しい契約です。

2 コリント 3:6 神はわたしたちに力を与えて、新しい契約に仕える者とされたのである。それは、文字に仕える者ではなく、霊に仕える者である。文字は人を殺し、霊は人を生かす。

3:13 そしてモーセが、消え去っていくものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、顔におおいをかけたようなことはしない。

3:14 実際、彼らの思いは鈍くなっていた。今日に至るまで、彼らが古い契約を朗読する場合、その同じおおいが取り去られないままに残っている。それは、キリストにあってはじめて取り除かれるのである。

3:15 今日に至るもなお、モーセの書が朗読されるたびに、おおいが彼らの心にかかっている。

3:16 しかし主に向く時には、そのおおいを取り除かれる。

3:17 主は霊である。そして、主の霊のあるところには、自由がある。

3:18 わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

申命記 30:10 これはあなたが、あなたの神、主の声に聞きしたが、この律法の書にしるされた戒めと定めとを守り、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に帰するからである。

30:11 わたしが、きょう、あなたに命じるこの戒めは、むずかしいものではなく、また遠いものでもない。

30:12 これは天にあるのではないから、『だれがわれわれのために天に上り、それをわれわれのところへ持ってきて、われわれに聞かせ、行わせるであろうか』と言うに及ばない。

30:13 またこれは海のかなたにあるのではないから、『だれがわれわれのために海を渡って行き、それをわれわれのところへ携えてきて、われわれに聞かせ、行わせるであろうか』と言うに及ばない。

30:14 この言葉はあなたに、はなはだ近くあってあなたの口にあり、またあなたの心にあるから、あなたはこれを行うことができる。

30:15 見よ、わたしは、きょう、命とさいわい、および死と災をあなたの前に置いた。

30:16 すなわちわたしは、きょう、あなたにあなたの神、主を愛し、その道に歩み、その戒めと定めと、おきてとを守ることを命じる。それに従うならば、あなたは生きながらえ、その数は多くなるであろう。またあなたの神、主はあなたが行って取る地であなたを祝福されるであろう。

「こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」。何という深みのあるお言葉なのでしょう。何という、神様の深い愛と憐れみ、見返りを求めない一方的な恵みと忍耐による真実の愛なのでしょう。

11 彼らは、それぞれ、その同胞に、また、それぞれ、その兄弟に、主を知れ、と言って教えることはなくなる。なぜなら、大なる者から小なる者に至るまで、彼らはことごとく、わたしを知るようになるからである。

イエス様の十字架の贖いによって罪赦され、聖霊が注がれる時、以下の御言葉の力支えが与えられます。

使徒 1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

との御言葉のとおり、私たちは主なる神様を知るのです。イエス様を神の御子、神の遣わされた方、神ご自身と信じる時、私たちに神様が分かるようになるのです。

ヨハネ 14:9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。」 どうして、わた

したちに父を示してほしいと、言うのか。

14:10 わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。

14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

12 わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない」。

「わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない」
この憐れみ深い神様のお言葉を味わいましょう。これもイエス様の贖いのお陰です。イエス様はご自身の血潮によって、私たちのために新しい救いの契約を揺るぎのないものとして立てて下さいました。

ルカ 22:20 食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。

13 神は、「新しい」と言われたことによって、初めの契約を古いとされたのである。年を経て古びたものは、やがて消えていく。

私たちの不義をあわれんでくださる神様は、ご自分の完全な契約を欠けたもの、古いもの、古びたもの、やがて消えていくものなどと呼んで、更に優れた救いを、更に優れた大祭司イエスキリストによって私たちに与えて下さいました。何という恵みでしょうか。私たちもまた、この新しい契約をもたらして下さいましたイエス様を畏れかしこみ、感謝して、この尊いお方の足跡に従っていこうではありませんか。

2コリント 4:1 このようにわたしたちは、あわれみを受けてこの務についているのだから、落胆せずに、

4:2 恥ずべき隠れたことを捨て去り、悪巧みによって歩かず、神の言を曲げず、真理を明らかにし、神のみまえに、すべての人の良心に自分を推薦するのである。

4:3 もしわたしたちの福音がおおわれているなら、滅びる者どもにとっておおわれているのである。

4:4 彼らの場合、この世の神が不信の者たちの思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光の福音の輝きを、見えなくしているのである。

4:5 しかし、わたしたちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝える。わたしたち自身は、ただイエスのために働くあなたがたの僕にすぎない。

4:6 「やみの中から光が照りいでよ」と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。

4:7 しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。

4:8 わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。

4:9 迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。

4:10 いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。

4:11 わたしたち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されているのである。それはイエスのいのちが、わたしたちの死ぬべき肉体に現れるためである。

4:12 こうして、死はわたしたちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのである。

4:13 「わたしは信じた。それゆえに語った」としてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じている。それゆえに語るのである。

4:14 それは、主イエスをよみがえらせたかたが、わたしたちをもイエスと共によみがえらせ、そして、あなたがたと共にみまえに立たせて下さることを、知っているからである。

4:15 すべてのことは、あなたがたの益であって、恵みがますます多くの人に増し加わるにつれ、感謝が満ちあふれて、神の栄光となるのである。

4:16 だから、わたしたちは落胆しない。たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。

4:17 なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。

4:18 わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。

ホセア 6:1 「さあ、わたしたちは主に帰ろう。主はわたしたちをかき裂かれたが、またいやし、わたしたちを打たれたが、また包んでくださるからだ。

6:2 主は、ふつかの後、わたしたちを生かし、三日目にわたしたちを立たせられる。わたしたちはみ前で生きる。

6:3 わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ることを求めよう。主はあしたの光のように必ず現れいで、冬の雨のように、わたしたちに臨み、春の雨のように地を潤される」。

【今日の説教から】

今日はヘブル8章です。その文頭、「以上述べたことの要点は」と切り出します。

天使を挙げ、モーセを挙げ、メルキゼデクを挙げ、そしてそれらに比しても圧倒的な存在感を持つイエス様について語り、いよいよここではその結論として、地上の神殿を司る大祭司らに勝る天上の真の幕屋なる聖所で使える大祭司、イエスキリストについて語られます。天には地上の聖所にはるかに勝る聖所があります。地上の壮麗な神殿といえども、そのひな形と影にすぎません。

地上の聖所の大祭司も重要な役割を担っていますが、キリストははるかに優れた務めを得られ、さらに勝った約束に基づき、さらに勝った契約の仲保者となりました。

出エジプトの時、神様はモーセを通して民に十戒をお与えになり、神様が手を取って、エジプトから救い出した民を導こうとされました。しかし民はその契約にとどまろうとはしませんでした。

そこで神様は新しい契約をお与えになりました。それは聖霊により、神様の思いを私たちの心深くに確かに刻み込むことでした。「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民と」なり、「彼らはことごとく、わたしを知るように」なる。「わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない」という新しい契約がイエス様の贖いによってついに達成されたのです。この恵みに目を留めたいと思います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。この暑い夏も私たちの健康をお守りください。壮麗な神殿もまた、天の聖所の写しであり影に過ぎないとのこと、そのように、キリストイエスは私たちのためにはるかに優れた務めをなさり、手を取ってエジプトから助け出してくださった恩のある神様の下さったみ教えに不忠実な民の心を新たにしてお聞きし、ありがとうございます。「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」、「わたしは、彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い出しはしない」との恵み深いお言葉に感謝いたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン